

「秀太郎」

草姿は立性で、株揃い、株張りが良く収量が多い、べと病1～7抵抗性。

「スクープ」

夏から早春播き、草姿は極立性で小葉、葉柄はしっかりしており調整作業がし易い。べと病R-1～4抵抗性。

※抵抗性及び耐病性の表現については、メーカーカタログによる。

2 本圃準備

(1) 圃場

排水良好で土層が深く灌水の便利な圃場を選定する。

(2) 土づくり

ハウレンソウは土づくりが基本となるので良質堆肥10a当たり2～3t施用する。

(3) 酸度矯正

栽培予定の圃場はあらかじめ土壌のpHを測定し、pH6.0～7.0になるように石灰類を施用して調整しておく。

(4) 排水対策

雨よけハウスの周囲は溝を深く掘り排水をよくしておく。

3 畦作り・施肥

畦作りは、土質や作型によって異なり、特に8月下旬～9月中旬まきでは、台風や秋雨による湿害の発生が多いので、畦立てをした方がよい。

また、10月下旬～11月まきの遅まきでは乾燥害が問題であり、平畦にして保水性をよくした方がよい。

一般に、排水のよい圃場では平畦とし、水田後作などでは高畦とする。

【 播種期別施肥量 】

9月まき (Kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	10	12	7	追肥1回
追肥	2		2	
全量	12	12	9	

10月まき (Kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	10	20	5	追肥2回 分 施
追肥	10		10	
全量	20	20	15	

11月以降まき (Kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	10	25	5	追肥3回 分 施
追肥	15	0	10	
全量	25	25	15	

4 播種

(1) 播種期

9月下旬から3月中旬 (品種により異なる)

(2) 播種量

10a当たり2～5ℓ

(3) 播種方法

80cmの畦幅に2条まき、または100cmの畦幅に3条まき、140cmに4条まきとし、条間は15cmとし条まきとする。

覆土は種子がかくれる程度に行い、軽く鎮圧し、その後十分灌水する。

播種機やシーダーテープを利用すると省力化が図られる。

5 栽培管理

(1) 間引き

1粒蒔きを基本とし、間引きはしない。

(2) 追肥

8月下旬～9月まきでは1回、10月まきでは2回、11月以降まきでは3回程度追肥を行

う。

6 収 穫

年内どりで、50日程度で収穫できる。

収穫後、大きさ別に結束し収穫する。